

# 肥育牛経営における収益性の向上支援(和牛生産基盤拡充支援)

畜産技術センター普及指導課

実施期間: 令和4~6年

## 課題・目的

- 受精卵移植による和牛子牛生産は酪農経営の大きな副収入であるとともに、県内の和牛生産基盤の拡充につながっており、酪農家の和牛子牛の哺乳技術は重要な課題である。
- 子牛の発育には品質の良い初乳の給与が必要であるため、酪農家が簡易に初乳の品質を確認する方法を実証展示し、和牛子牛の哺乳技術の向上による経営の安定化を図る。

## 活動内容

- 初乳のブリックス値と移行抗体であるIgG量(※)は、正の相関関係がある研究結果を基に研究成果導入展示ほを設置した。
  - 搾乳牛約35頭を飼養し、積極的に和牛受精卵移植を利用している酪農家で、ブリックス値を測定した初乳を和牛子牛に給与した。
  - 初乳のブリックス値は、母牛の産歴が高く、分娩後の経過時間が短いほど高く(図1)、ブリックス値から試算した初乳の給与量の目安を酪農家に提案した(表1)。
  - ブリックス値を確認した初乳の給与により、子牛の下痢が減少した。また、高価な初乳製剤の使用が減少し、コスト削減にもつながった。
- ※IgG量とは、子牛が免疫を獲得するために必要な初乳に含まれる重要な成分

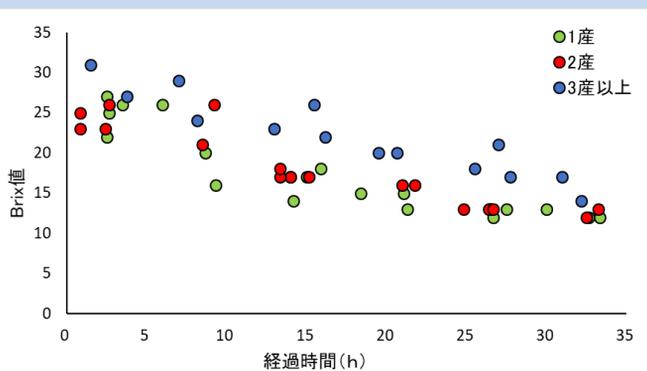


表1 ブリックス値から試算した初乳給与量の目安

初乳のブリックス値	1 L 当たりの Ig G 量 (a)	初乳給与量	
		Ig G 摂取量 200 g (b)	Ig G 摂取量 300 g (c)
23	78 g	2.6 L	3.8 L
28	114 g	1.7 L	2.6 L

$b = 200 / a$ 、 $c = 300 / a$

図1 初乳のブリックス値の変化

## 今後の展開

- 展示ほど調査した子牛の販売価格を調査し、経済効果を確認する。
- 酪農家が簡易に初乳のIgG量を確認できることから、和牛子牛の生産に取り組む酪農家に技術を普及する。